

ネットワーク ライセンス 管理者ガイド

次の説明は、IBM® SPSS® Modeler Text Analytics 15 にネットワーク ライセンスを使用しているサイトの管理者向けです。このライセンスでは、任意の数のコンピュータに IBM SPSS Modeler Text Analytics をインストールできます。ただし、アプリケーションを同時に実行できるユーザーの数は、ライセンスを購入したユーザーの数に制限されます。

始める前に

認証コードが必要です。認証コードは、別紙で提供されるか、または <http://www.ibm.com/software/getspss> から入手できます。この認証コードを使用して、Network License Manager 用のライセンスを取得できます。**Network License Manager** では、ネットワーク ライセンスが管理され、エンド ユーザーが IBM® SPSS® Modeler Text Analytics を実行できるようにします。認証コードが見つからない場合は、営業担当者に連絡してください。

ネットワーク ライセンスが正しく設定されていることを確認するには、次の手順を実行します。

- ▶ **Network license manager をインストールします。**Network License Manager は、エンド ユーザーにネットワーク ライセンスを与えるユーティリティです。ネットワーク内のどのコンピュータにもライセンス マネージャをインストールできます。通常、デスクトップ コンピュータが接続できるサーバーにインストールします。詳細は、[p. 2 Network License Manager のインストール](#) を参照してください。
- ▶ **製品にライセンスを許可します。**この操作により、ライセンスの許可に必要な情報が License Manager に提供されます。詳細は、[p. 6 製品のライセンス](#) を参照してください。
- ▶ **Network license manager をインストールします。**ライセンス マネージャが適切に稼動していることを確認するために、ライセンス マネージャをテストする必要があります。詳細は、[p.10 ライセンス マネージャのテスト](#) を参照してください。
- ▶ **ローカルのデスクトップ コンピュータに IBM SPSS Modeler Text Analytics をインストールします。**ユーザーまたはエンド ユーザーがデスクトップ コンピュータで完全インストールを実行します。インストール中に、エンド ユーザーはライセンス マネージャを実行しているコンピュータを指定します。エンド ユーザーが IBM SPSS Modeler Text Analytics を起動しようとする、ライセンス マネージャに接続されライセンスが取得されます。ライセンスが利用可能になると、IBM SPSS Modeler Text Analytics が起動します。詳細は、[p.10 ローカル デスクトップ コンピュータへの製品のインストール](#) を参照してください。

インストールに必要な管理手順はありませんが、何か問題が発生した場合は、「[ネットワーク ライセンスの管理](#)」(p. 11) を参照してください。

Network License Manager のインストール

エンド ユーザーがデスクトップ コンピュータに IBM® SPSS® Modeler Text Analytics をインストールする前に、Network License Manager をインストールする必要があります。このユーティリティは、継続して実行されるサービスまたはデーモンで、通常ネットワーク上の 1 台のコンピュータにインストールします。(リダンダントライセンス マネージャを設定する場合、複数のコンピュータにインストールすることもできます。詳細は、「[リダンダント ライセンス サーバーの設定](#)」(p.13) を参照してください。)デスクトップ コンピュータにはネットワーク ライセンス マネージャをインストールしません。

エンド ユーザーが、ネットワーク ライセンスが許可された IBM SPSS アプリケーションを起動するたびに、ライセンス マネージャからライセンスが要求されます。購入したライセンスによってソフトウェアを同時に使用できるエンド ユーザー数が決まっており、このユーティリティによってその数までのライセンスが各コンピュータに発行されます。ライセンス数が上限に達すると、それ以降のライセンス要求は拒否されます。エンド ユーザーが頻繁にライセンスを拒否されていることがわかったら、営業担当者に連絡し、ソフトウェアを同時に使用できるエンド ユーザー数をもっと多いライセンスを購入できます。

ライセンス マネージャは別の DVD から入手できます。また、eImage としてダウンロードすることもできます。

注:License Manager では、アクティブなエンド ユーザー セッションの数や各セッションに関する情報がログ ファイルに記録されます。このログ ファイルは、接続上の問題でトラブルシューティングを行う際に役立ちます。詳細は、[p.12 ログ情報の取得](#) を参照してください。

その他のオペレーティング システム:

この network license manager が稼動しているプラットフォームは、クライアントが稼動しているプラットフォームと一致する必要はありません。たとえば、Linux のライセンス マネージャは、Windows のクライアントにライセンスを与えることができます。

ライセンス マネージャの管理

Windows のみに使用できるライセンス マネージャ ツールを使用して、ライセンス マネージャを管理します。そのため、ライセンス マネージャ ツールをインストールするために少なくとも 1 台の Windows マシンが必要です。

システム要件

Network License Manager をインストールするコンピュータは、次の要件を満たしている必要があります。

- 550Mhz 以上のプロセッサ
- 128MB 以上の RAM

重要! ライセンス サーバー上でファイアウォールを実行している場合は、UDP 用にポート 5093 を開く必要があります。そうしないと、クライアント コンピュータは License Manager からライセンスを取得できません。さらに、リダンダント (冗長) ライセンス サーバーを使用する場合、ライセンス サーバーが互いに通信できるように、UDP 用にポート 5099 を開ける必要があります。

License Manager のアップグレード

以前のバージョンの license Manager がインストールされている場合は、次の手順を実行する必要があります。

- ▶ 古い license Manager をインストールしたディレクトリに移動します。
- ▶ lservrc ファイルをコピーします。Windows では、winnt サブディレクトリの中を探してください。
- ▶ 安全な場所に lservrc ファイルを保存します。
- ▶ ユーザーがコンピュータ ライセンスをチェックアウトした場合、これらのユーザーがライセンスを再度チェックインするようにします。
- ▶ License Manager を終了します。 [詳細は、 p.16 license manager の開始および停止を参照してください。](#)
- ▶ 古いライセンス マネージャをアンインストールします。 [詳細は、 p.18 License manager のアンインストールを参照してください。](#)
- ▶ 新しい license Manager をインストールします。 Windows へのインストールの詳細は、「[Windows でのライセンス マネージャのインストール](#)」(p. 4) を参照してください。UNIX/Linux へのインストールの詳細は、「[UNIX/Linux でのライセンス マネージャのインストール](#)」(p. 4) を参照してください。Mac OS へのインストールの詳細は、「[Mac OS でのライセンス マネージャのインストール](#)」(p. 5) を参照してください。
- ▶ 保存された lservrc ファイルを、新しい License Manager をインストールした場所またはインストール ディレクトリの winnt サブディレクトリ (Windows の場合) にコピーします。Windows のデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\ フォルダを確認してください。

コンカレント ライセンス ツールのインストール (すべてのプラットフォーム)

ライセンス マネージャおよびライセンス マネージャ ツールをインストールする前に、コンカレント ライセンス ツール インストーラを実行する必要があります。このインストーラは、ライセンス マネージャおよびライセンス マネージャ ツールのインストーラ ファイルを、コンピュータにコピーします。インストールの際は、どのインストーラ ファイルをコピーするか選択できます。

コンカレント ライセンス ツール インストーラには Java 1.5 以上が必要です。

- ▶ ライセンス マネージャまたはライセンス マネージャ ツールを実行するネットワークコンピュータの DVD ドライブに DVD を挿入します。オペレーティング システムに応じたインストーラを入手して、DVD から起動してください。

または

- ▶ eImage ファイルをダウンロードしている場合は、WinZip などのアーカイブ ユーティリティを利用して、適切な eImage からすべてのファイルを抽出します。オペレーティング システムに応じたインストーラ ファイルを起動してください。

注:コンカレント ライセンス ツールには、複数の eImage がある場合があります。それぞれ、ライセンス マネージャ用、ライセンス マネージャ ツール用、ハードウェアキー ドライバー用です。各 eImage はコンカレント ライセンス ツールおよび作成したコンポーネントのインストーラをインストールします。

- ▶ 画面に表示される指示に従います。インストール ディレクトリに注意してください。ライセンス マネージャまたはライセンス マネージャ ツールのインストールを選択した場合は、自動的にインストール プロセスが開始されます。

Windows でのライセンス マネージャのインストール

注:Windows Vista または 7 では、管理者としてインストーラを起動する必要があります。インストーラ ファイルを起動するよう指示された場合、ファイルを右クリックして [管理者として実行] を選択します。

- ▶ コンカレント ライセンス ツールをインストールしていない場合はインストールし、メッセージが表示される場合には必ず **Sentinel License Manager** を選択してください。詳細は、[p. 3 コンカレント ライセンス ツールのインストール \(すべてのプラットフォーム\)](#) を参照してください。
- ▶ DVD からコンカレント ライセンス ツールをインストールする場合は、ライセンス マネージャのインストールが自動的に開始されます。インストールが開始されない、またはインストールをキャンセルした場合は、コンカレント ライセンス ツール インストール ディレクトリのライセンス マネージャ ディレクトリを参照してください。
- ▶ setup.exe を起動します。Windows Vista または 7 では、管理者としてインストーラを起動する必要があります。
- ▶ 画面に表示される指示に従います。

UNIX/Linux でのライセンス マネージャのインストール

- ▶ コンカレント ライセンス ツールをインストールしていない場合はインストールし、メッセージが表示される場合には必ず **Sentinel License Manager** を選択してください。詳細は、[p. 3 コンカレント ライセンス ツールのインストール \(すべてのプラットフォーム\)](#) を参照してください。
- ▶ コンカレント ライセンス ツール インストール ディレクトリの ライセンス マネージャ ディレクトリを参照してください。
- ▶ ライセンス マネージャ ファイルを解凍します。

- ▶ Windows コンピュータに License Manager ツールをインストールします。詳細は、[p. 5 ライセンス マネージャ ツールのインストール](#) を参照してください。
- ▶ License Manager の開始方法に関する詳細は、「[license manager の開始および停止](#)」（[p. 16](#)）を参照してください。

Mac OS でのライセンス マネージャのインストール

- ▶ コンカレント ライセンス ツールをインストールしていない場合はインストールし、メッセージが表示される場合には必ず **Sentinel License Manager** を選択してください。詳細は、[p. 3 コンカレント ライセンス ツールのインストール（すべてのプラットフォーム）](#) を参照してください。
- ▶ コンカレント ライセンス ツール インストール ディレクトリの ライセンス マネージャ ディレクトリを参照してください。
- ▶ ライセンス マネージャ ZIP ファイルをダブルクリックし、ファイルのコンテンツを抽出します。
- ▶ 抽出したライセンス マネージャ インストーラをダブルクリックしてください。
- ▶ 画面に表示される指示に従います。
- ▶ Windows コンピュータに License Manager ツールをインストールします。詳細は、[p. 5 ライセンス マネージャ ツールのインストール](#) を参照してください。
- ▶ License Manager の開始方法に関する詳細は、「[license manager の開始および停止](#)」（[p. 16](#)）を参照してください。

ライセンス マネージャ ツールのインストール

Windows 専用のライセンス マネージャ ツールを使用して、ライセンス マネージャを管理します。オペレーティング システムに応じて、これらのツール手動でインストールする必要があります。

- **Windows:** ライセンス マネージャをインストールしたコンピュータには、ライセンス・マネージャ ツールをインストールできます。また、ライセンス マネージャをリモートで管理する場合、別の Windows コンピュータにインストールするオプションもあります。
- **その他のオペレーティング システム:** Windows 以外のコンピュータにライセンス マネージャをインストールした場合、Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールする必要があります。
- ▶ コンカレント ライセンス ツールをインストールしていない場合はインストールし、メッセージが表示される場合には必ずツールを選択してください。詳細は、[p. 3 コンカレント ライセンス ツールのインストール（すべてのプラットフォーム）](#) を参照してください。
- ▶ コンカレント ライセンス ツール インストール ディレクトリの ツール ディレクトリを参照してください。

- ▶ setup.exe を起動します。
- ▶ 画面に表示される指示に従います。

製品のライセンス

製品本体部分の Windows 上インストールの完了後、[終了] をクリックするとライセンス認証ウィザードが起動します。ライセンス認証ウィザードでは、IBM® SPSS® Modeler Text Analytics のライセンスを取得できます。その他のオペレーティングシステムの場合、ライセンス マネージャ をインストールした後で、コマンド プロンプトからライセンスをインストールする必要があります。

今すぐライセンスを取得しない場合、一時的な試用期間中のみ 限られた数のユーザーが IBM SPSS Modeler Text Analytics を使用できるよう有効化できます。トライアル期間（製品を最初に使用した時から開始）が終了すると IBM SPSS Modeler Text Analytics は動作しなくなります。そのため、できるだけ早くライセンスを取得することをお勧めします。ライセンスを取得するか、一時的なトライアル ライセンスを有効にしないと、IBM SPSS Modeler Text Analytics を使用することはできません。

注:ライセンスは、ネットワーク コンピュータのロック コード付きハードウェアに関連付けられます。ネットワーク コンピュータまたはそのハードウェアを交換すると、新しいロック コードが与えられるため、販売担当者に連絡して新しい認証コードを取得する必要があります。また、認証コードは特定の数の CPU に対して生成されたものであることに注意してください。認証コードで指定された数よりも CPU が多いと、警告メッセージが表示され、認証から 30 日後に製品は実行できなくなります。

警告:ライセンスは時刻の変更を感知します。システムの日付や時刻を変更した後に製品を実行できなくなった場合、<http://www.ibm.com/support> から IBM Corp. テクニカルサポートに連絡してください。

ライセンス認証ウィザード (Windows のみ) の使用

ライセンス認証ウィザードは Windows のみで使用可能です。他のオペレーティングシステム上のライセンス マネージャが必要な場合は、コマンド プロンプトからライセンスを実行しなければなりません。詳細は、[p. 7 コマンド プロンプトからのライセンスのインストール](#) を参照してください。

- ▶ インストール中にライセンス認証ウィザードを起動しなかった場合や、ライセンス取得前にライセンス認証ウィザードをキャンセルした場合には、ライセンス マネージャのインストール ディレクトリにある law.exe を実行して、それを起動させることができます。Windows Vista または 7 では、管理者として起動する必要があります。law.exe を右クリックして [管理者として実行] を選択します。
- ▶ ライセンス認証ウィザードが立ち上がったら、[すぐ製品にライセンスを適用する] を選択します。
- ▶ プロンプトが表示されたら、1つまたは複数の認証コードを入力してください。IBM SPSS Modeler Text Analytics をダウンロードした場合は、認証コードは <http://www.ibm.com/software/getspss> から入手できます。物理的インストール メ

ディアを受け取っていただければ、認証コードはソフトウェアと一緒に別紙で提供されるか、または、DVD ケースのカバー内側にある場合があります。認証コードをシステム管理者から受け取ってください。

ライセンス認証ウィザードから、認証コードが IBM Corp. にインターネット経由で送信され、ライセンスを自動的に取得します。プロキシを設定している場合は、[プロキシを設定] をクリックし、適切な設定を入力してください。

認証プロセスが失敗すると、電子メールの送信を指示するダイアログ ボックスが表示されます。そして、デスクトップの電子メール プログラムを使って電子メールを送信するか Web ベースの電子メール アプリケーションを介して電子メールを送信するか選択します。

- デスクトップを選択した場合、適切な情報で新しいメッセージが自動的に作成されます。
- Web ベースのアプリケーションを選択した場合、まず Web ベースの電子メール プログラムで新しいメッセージを作成する必要があります。ライセンス認証ウィザードからメッセージ テキストをコピーし、電子メール アプリケーションに貼り付けます。

電子メール メッセージを送信すると、ライセンス認証ウィザードの確認メッセージが表示されます。電子メールは、即座に処理されます。[ライセンス コードを入力] をクリックして、受信したライセンス コードを入力します。すでにライセンス認証ウィザードを閉じている場合、ウィザードを再起動して [今すぐ製品にライセンスを適用する] を選択します。[コードを入力] パネルで、受け取ったライセンス コードを入力し、[次へ] をクリックしてプロセスを完了します。

コマンド プロンプトからのライセンスのインストール

コマンド プロンプトからインストールするには、2 つの方法があります。licenseactivator を使用するとインターネットから自動的にライセンスを取得でき、echoid を使用すると手動で取得できます。

licenseactivator を使用したライセンスの自動インストール

ライセンスをインストールするコンピュータはインターネットに接続している必要があります。接続していない場合は、ライセンスを手動でインストールしてください。詳細は、[p. 9 ライセンスの手動インストール](#) を参照してください。

- ▶ License Manager をインストールしたユーザーとしてログインします。
- ▶ コマンド プロンプトを起動して、ライセンス マネージャのインストール ディレクトリに移動します。これは、ライセンス マネージャのインストール先ディレクトリではなく、IBM® SPSS® Modeler Text Analytics のインストール先ディレクトリではありません。Windows のデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\RMS License Manager フォルダを確認してください。
- ▶ **Windows のみ**: winnt サブディレクトリに移動します。

- ▶ 通常は認証コードを使用します。コマンド プロンプトで次のように入力します。これは、最も簡単な例です。コマンド プロンプトの使用の詳細は、この後の説明を参照してください。

`licenseactivator <auth-code>`

`<auth-code>` は認証コードです。

ライセンスが有効になったことを示すメッセージが表示されます。このメッセージが表示されない場合は、エラー コードを確認し、ライセンスを手動でインストールしてください。詳細は、[p. 9 ライセンスの手動インストール](#) を参照してください。

`licenseactivator` 使用すると、製品を認可し、そのディレクトリにログファイルを書き込みます。ログ ファイル名は、`licenseactivator_<month>_<day>_<year>.log` です。エラーが発生した場合は、ログ ファイルで詳細を確認できます。この情報は、IBM Corp. に問い合わせをする際にも役立ちます。

ライセンス コードを使った認証コードの使用方法。

`licenseactivator` は、一般に、製品を購入したときに受け取った 1 つ以上の認証コードとともに使用します。すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
licenseactivator authcode1[:authcode2:...:authcodeN] [PROXYHOST=proxy-hostname]
[PROXYPORT=proxy-port-number] [PROXYUSER=proxy-userid] [PROXYPASS=proxy-password]
```

- 認証コードが複数ある場合はコロン (:) で区切ります。
- プロキシ設定は任意ですが、コンピュータがプロキシを設定している場合は設定が必要な場合があります。OS によって、必要なプロキシ設定が異なります。

Windows: プロキシ設定が機能するのは、コントロール パネルの [インターネット オプション] にある [ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定] で、特定の プロキシ サーバーのアドレスおよびポートが指定されている場合に限りです。コマンド ラインにプロキシ ホストおよびポートを入力しないでください。ただし、`PROXYUSER` および `PROXYPASS` に値を入力する必要があります。

その他のオペレーティング システム: その他のオペレーティング システムの場合、特定の プロキシ設定に応じて、コマンド ラインのすべてのプロキシ設定の入力が必要な場合があります。

ライセンス コードを使った `licenseactivator` の使用方法

あまり一般的ではありませんが、IBM Corp. からすでに「ライセンス」を受けている場合もあります。

```
licenseactivator licensecode[:licensecode2:...:licensecodeN]
```

- ライセンス コードが複数ある場合はコロン (:) で区切ります。
- ライセンス コードを使用する場合、`licenseactivator` はインターネットに接続しないため、プロキシ情報を指定する必要はありません。

ライセンスの手動インストール

- ▶ License Manager をインストールしたユーザーとしてログインします。
- ▶ コマンド プロンプトを起動して、ライセンス マネージャのインストール ディレクトリ。これは、ライセンス マネージャのインストール先ディレクトリで、IBM® SPSS® Modeler Text Analytics のインストール先ディレクトリではありません。Windows のデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。
- ▶ **Windows のみ**: winnt サブディレクトリに移動します。
- ▶ サーバー コンピュータ用のロック コードを取得します。コマンド プロンプトで、「echoid」と入力します(その他の OS)。または「./echoid」(UNIX) と入力します。
- ▶ 当社にご連絡いただくか、spsscs@us.ibm.com にメールをお送りいただくことにより、ロック コードおよび認証コードを IBM Corp. にお送りください。IBM Corp. から、ライセンス コードまたはライセンス コードを含むファイルをお送りします。
- ▶ licenseactivator を使って、ライセンス コードを入力します。

トライアル ライセンスの有効化

ライセンスをインストールしなかった場合は、一時的なトライアル ライセンスで使用するよう IBM® SPSS® Modeler Text Analytics を有効化できます。

- ▶ 物理的インストール メディアがある場合、DVD が DVD ドライブ内にあることを確認してください。eImage をダウンロードした場合、eImage のコンテンツを開くまたは抽出します。
- ▶ WlmAdmin アプリケーションを起動します。 [詳細は、 p.11 WlmAdmin アプリケーションの起動 を参照してください。](#)
- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のパネルで、[Subnet Servers] の隣にある + 記号をクリックします。ライセンス マネージャ サーバーが一覧表示されていない場合は、[Edit] メニューから [Defined Server List] を選択してコンピュータを指定します。
- ▶ ライセンス マネージャを実行しているネットワーク コンピュータの名前を右クリックして、次の項目を選択します。
[Add Feature] > [From a File] > [To Server and its File]

注:[To Server and its File] ではなく、[To Server] を選択した場合、トライアル ライセンスがメモリ内に保存されます。ネットワーク コンピュータを再起動すると、このライセンスは消失します。
- ▶ [Open] ダイアログ ボックスで「D:\Sentinel\LicenseManager\lservrc.temp」と入力します。ここでの D はインストール ディスク ドライブを示します。ディスク ドライブに D 以外のドライブを使用している場合は、適切なドライブ文字を入力してください。
- ▶ ライセンスが表示されたら、[OK] をクリックします。ライセンスの詳細を表示する方法は、「[ライセンスに関する詳細の表示](#)」(p.12) を参照してください。

ライセンスの追加

後でライセンスを追加することができます。ライセンス追加のプロセスは、元のライセンスをインストールするプロセスと同じです。

ライセンスの表示

WlmAdmin アプリケーションでネットワーク ライセンス（ユーザー数を含む）を表示できます。WlmAdmin アプリケーションおよびライセンスの表示の詳細は、「[ネットワーク ライセンスの管理](#)」（p. 11）を参照してください。

ライセンス マネージャのテスト

ライセンス マネージャが適切に稼働していることを確認するために、ライセンス マネージャをテストする必要があります。

- ▶ 別のコンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールしていない場合、テストしたいライセンス マネージャが稼働して「いない」Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールしてください。詳細は、[p. 5 ライセンス マネージャ ツールのインストール](#) を参照してください。
- ▶ WlmAdmin アプリケーションを起動します。詳細は、[p. 11 WlmAdmin アプリケーションの起動](#) を参照してください。
- ▶ テストするリモート ライセンス マネージャ サーバーを追加します。詳細は、[p. 11 サーバーの追加](#) を参照してください。
- ▶ リモート サーバーのライセンスを表示します。詳細は、[p. 12 ライセンスに関する詳細の表示](#) を参照してください。

ライセンスを表示できる場合、ライセンス マネージャはローカル デスクトップ コンピュータと接続する準備ができています。ローカル デスクトップ コンピュータに製品をインストールできます。ライセンスが表示されない場合、前の手順を見直して、ライセンス マネージャが正しくインストールされていることを確認してください。

ローカル デスクトップ コンピュータへの製品のインストール

注:VPN を経由しての ネットワーク ライセンス マネージャへの接続は正式にはサポートしておりません。

- ▶ **インストール メディアを利用可能にする。** 製品用の eImage をダウンロードし、共有ネットワーク ドライブにファイルを抽出します。物理的インストール メディアがある場合、DVD のコピーを必要な部数作成するか、製品 CD-ROM を共有ネットワーク ドライブに置きます。
- ▶ **インストール手順書をコピーし、ライセンスに関する情報を準備する。** 製品のインストール手順書のコピーを必要な部数作成します。インストール手順書はダウンロード サイトから入手できますが、物理的なインストール メディアを受け取っている場合は、DVD のDocumentation ディレクトリから使用できます。使用するライセンスの

タイプに対応した手順書を入手してください。手順書の完全版もしくは短縮版を配布することができます。インストール終了後、エンド ユーザーは Network License Manager を実行しているネットワーク コンピュータの IP アドレスまたは名前を入力する必要があります。指示書をコピーする前に、指示書の初めにある空欄にこの情報を記入しておきます。

- ▶ **インストールに必要なものをエンド ユーザーに配布する。** インストール DVD(またはネットワーク上でのインストール ディスクの場所)、インストール手順書、およびライセンス情報を、各コンピュータに手動でインストールできるエンド ユーザーに必要な応じて配布します。

ネットワーク ライセンスの管理

ライセンス マネージャでネットワーク ライセンスを管理します。ライセンス マネージャ自体を管理し、保持しているネットワーク ライセンスに関する情報を表示するために、ライセンス マネージャ ツールの主要なユーザー インターフェイスである WlmAdmin アプリケーションを使用できます。ライセンス マネージャ ツールは、Windows のネットワーク ライセンス マネージャとともに自動的にインストールされます。Windows 以外のコンピュータまたはリモート Windows コンピュータでライセンス マネージャを管理している場合は、Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールしてください。詳細は、[p. 5 ライセンス マネージャ ツールのインストール](#) を参照してください。

注:管理情報の詳細を確認する場合は、コンカレント ライセンス ツールと共にインストールされた SafeNet ドキュメンテーションを参照してください。コンカレント ライセンス ツール インストール ディレクトリ内の licensemanager/documentation ディレクトリにあります。

WlmAdmin アプリケーションの起動

ライセンス マネージャがインストールされている Windows コンピュータから起動する

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
[すべてのプログラム] > [Sentinel RMS License Manager] > [Sentinel RMS Server Administration]

ライセンス マネージャ ツールがインストールされている Windows コンピュータから起動する

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
[すべてのプログラム] > [Sentinel RMS Tools] > [Sentinel RMS License Server Administration]

サーバーの追加

ネットワーク ライセンス マネージャを管理する前に、WlmAdmin アプリケーションにサーバーを追加する必要があります。サーバーを追加するには、2 つの方法があります。

手動でサーバーを追加するには

- ▶ WlmAdmin アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
編集 > Defined Server List
- ▶ [Defined Server List] ダイアログで、ライセンス マネージャを実行しているサーバーの名前または IP アドレスを入力します。
- ▶ [追加] をクリックします。
- ▶ [OK] をクリックします。

サーバーが、WlmAdmin アプリケーションの左側のパネルに [Defined Servers] リストが表示されます。

サブネットのサーバーのリストを表示するには

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のパネルで、[Subnet Servers] の隣にある + 記号をクリックします。

サブネットのネットワーク ライセンス マネージャ サーバーのリストが表示されます。この方法で特定のサーバーが見つからない場合、上記のようにサーバーを手動で追加する必要があります。

ログ情報の取得

エンド ユーザーのライセンスの確認がうまくいかない場合、ログ ファイルに役立つ情報が含まれていることがあります。LSERVOPTS 環境変数、`-f <trace-log-file>` および `-l <usage-log-file>` オプションを使用して、作成するログファイルを指定できます。環境変数とそのオプションの詳細については、コンカレント ライセンス ツール インストール ディレクトリの `licensemanager/documentation` ディレクトリにある、SafeNe ドキュメンテーションを参照してください。

ライセンスに関する詳細の表示

手動で、またはライセンス認証ウィザードを使用して追加したライセンスに関する詳細を表示できます。

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のパネルで、ライセンス マネージャ サーバーの隣の + 記号をクリックし、ライセンスを表示します。
- ▶ ライセンスの名前をクリックします。右側のパネルに、ライセンスに関する詳細が表示されます。ライセンスを識別するためにコードが使用されています。コードの最初の部分は機能を示します。2 番目の部分はバージョンを示します。

機能コードに関連付けられた名前を確認するには

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、ライセンス マネージャ またはライセンス マネージャ ツールがインストールされているディレクトリに移動します。

- ▶ 「lmshowlic <server>」(Windows)または「./lmshowlic <server> (その他のオペレーティング システム)」と入力します。<server> は、ライセンス マネージャを実行しているサーバーの名前または IP アドレスです。

サーバー上で使用可能なすべての機能の一覧が、製品別およびバージョン別に表示されます。

リダンダント ライセンス サーバーの設定

同じユーザー群をサポートする複数のリダンダント (冗長) ライセンス サーバーを設定できます。リダンダント サーバーにより、サービスがクラッシュしたときに発生する中断を防ぐことができます。1 台目のサーバーがクラッシュしても、別のリダンダント サーバーがライセンスの管理を引き継ぎます。

リダンダント (冗長) 機能を有効にするには、特殊な認証コードが必要です。ソフトウェアに付属する認証コードでは、冗長性が有効になりません。ソフトウェアに付属するコードをインストールすることにより、リダンダント (冗長) 機能を使用できなくなるため、注意してください。冗長性を有効にする場合は、下記の準備手順に従ってください。次に、カスタマ サービスに、電子メール (jpsupport@spss.com) または電話 (03-5466-5620) で 9:00 から 17:00 の間に連絡してください。北米以外のお客様は、お近くのオフィスにお問い合わせください。

3 台以上で奇数台のライセンス サーバーがあり、かつその過半数が同時に動作している必要があります。たとえば、リダンダント ライセンス サーバーが 3 台ある場合は、うち 2 台が動作中である必要があります。

各リダンダント ライセンス サーバーを準備するには

- ▶ ライセンス マネージャをインストールします。 [詳細は、 p. 2 Network License Manager のインストール を参照してください。](#)
- ▶ コマンド プロンプトを使用して、ライセンス マネージャをインストールしたディレクトリに移動します。
- ▶ 各サーバー コンピュータのロック コードを取得します。コマンド プロンプトで、「echoid」(Windows) または「./echoid」(他のオペレーティング システム) と入力します。
- ▶ ロック コードを控えておきます。カスタマ サポートまたはお近くのオフィスへのご連絡の際にこちらが必要になります。
- ▶ リダンダント ライセンス サーバーごとにこの手順を繰り返します。

リダンダント ライセンス サーバー プールを設定するには

- ▶ ライセンス マネージャがいずれかのリダンダント ライセンス サーバー上で実行されている場合は、各コンピュータの license manager 停止します。

- ▶ WlmAdmin アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
編集 > [Redundant License File]
WrlfTool アプリケーションが開きます。
- ▶ WrlfTool アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
ファイル > 新規
- ▶ リダンダント ライセンス サーバーごとに [Add] をクリックして、各サーバーのホスト名と IP アドレスを指定します。
- ▶ リダンダント ライセンス サーバーが使用される順序になるようにサーバーの順序を変更します。リストの最初がプライマリ サーバーです。
- ▶ [Add License] をクリックして、カスタマ サービスまたはお近くのオフィスから受け取ったライセンスを追加します。複数のライセンスを受け取った場合には、必ずすべてを追加してください。
- ▶ [OK] をクリックします。
- ▶ 入力し終わったら、[Done] をクリックします。

リダンダント ライセンス ファイルを保存するには

- ▶ WrlfTool アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
ファイル > 名前を付けて保存
- ▶ リダンダント ライセンス ライセンス ファイル (lserverlrf) をアクセスしやすい場所に保存します。次の手順でファイルをコピーする必要があります。

リダンダント ライセンス サーバーを設定するには

- ▶ リダンダント ライセンス ファイル (lserverlrf) を Windows をライセンス マネージャのインストール ディレクトリの winnt サブフォルダにコピーします。デフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。その他のオペレーティング システムの場合、ファイルをライセンス マネージャのインストール ディレクトリに直接コピーします。3 台以上のリダンダント ライセンス サーバーが必要です。
- ▶ 各リダンダント ライセンス サーバーでライセンス マネージャを開始します。

エンド ユーザーのコンピュータを設定するには

エンドユーザーが製品をインストールするときは、コロンで区切られたサーバー名または IP アドレス (例: server1:server2:server3) ですべてのリダンダント サーバーを指定します。これにより、セットアップ プログラムはエンド ユーザーのコンピュータに必要な設定情報を追加します。すでに製品がデスクトップ コンピュータにインストールされている場合は、設定情報を追加するために次の手順を手動で実行

してください。また、すべてのサーバーを定義する新しいインストールの後でアンインストールをプッシュすることもできます。

- ▶ テキスト エディタを使用して、デスクトップ コンピュータの製品インストール ディレクトリにある `spssprod.inf` を開きます。
- ▶ `DAEMONHOST` の行をコメントアウトします。例：

```
#DAEMONHOST=server1
```
- ▶ `spssprod.inf` を保存します。
- ▶ `LSHOST` 環境変数を作成します。コロンの区切られたサーバー名または IP アドレス (例: `server1:server2:server3`) ですべてのリダンダント サーバーが含まれるようにこの変数を設定します。

ライセンス リザーベーション (予約) の設定

特定のユーザーまたはユーザー グループに予約するライセンス数を指定するファイルとして、リザーベーション ファイルを作成できます。各ユーザーは、ネットワーク ID またはコンピュータ名 (IP アドレスではない) で識別されます。たとえば、パワーユーザーのグループ用のライセンスを予約するためのリザーベーション ファイルなどを設定できます。これらのユーザーにはライセンスは常に使用可能です。また、予約を利用して、特定のユーザーをライセンスにアクセスできないようにも設定できます。

新しいリザーベーション ファイルを作成するには

- ▶ `WlmAdmin` アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
編集 > [Reservation File]
`Wlsgrmgr` アプリケーションが開きます。
- ▶ `Wlsgrmgr` アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
ファイル > 新規

リザーベーション ファイルにライセンスとユーザーを追加するには

- ▶ `Wlsgrmgr` アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
特徴 > 追加
- ▶ ウィザードの最初の 画面で [Next] をクリックします。
- ▶ 予約対象のライセンスに関連付けられた機能コードを指定します。機能コードをライセンスに関連付ける方法に関する詳細は、「[ライセンスに関する詳細の表示](#)」(p. 12) を参照してください。また、`WlmAdmin` アプリケーションに表示されるバージョン (160 など) を入力して、対象バージョンを規定することもできます。バージョンは必須です。キャパシティ ライセンスはサポートされていないため、[Capacity] コントロールは無視してください。
- ▶ [次へ] をクリックします。

- ▶ ユーザー グループの名前を指定します。名前は、任意に設定できますが、内容を表すようなものにしてください（「Sales」など）。
- ▶ グループに予約するライセンス数を指定します。グループ メンバーは、依然としてすべてのライセンスにアクセスできますが、グループ外のユーザーには指定したライセンス数が使用できなくなります。たとえば、10 のライセンスがあつて 5 つを予約すると、グループのメンバーには 10 のライセンスが使用できますが、他のユーザーには 5 つしか使用できません。
- ▶ [Members] ウィンドウで、[Add] をクリックして、グループに関連付けるユーザー名またはコンピュータ名を指定します（IP アドレスは使用しない）。ユーザーまたはコンピュータがグループに含まれると、そのユーザーやコンピュータはリザベーション ライセンスを使用できるようになります。ユーザーまたはコンピュータがグループから外されると、そのユーザーやコンピュータはリザベーション ライセンスにまったくアクセスできなくなります。ユーザーやコンピュータを必要なだけ指定してください。なお、各グループは相互に排他的である必要があります。したがって、同じライセンスに関係する異なるグループには、互いに共通のユーザーやコンピュータを含めることはできません。
- ▶ すべてのユーザーがグループに追加されたら、[Finish] をクリックします。
- ▶ 必要に応じて、他のグループまたはライセンスを追加します。また、ライセンスまたはグループを右クリックし、[Properties] を選択して、ライセンスやグループの修正または削除が可能です。

リザベーション ファイルを保存するには

- ▶ リザベーション ファイルの定義を終了したら、メニューから次の項目を選択します。
ファイル > 名前を付けて保存
- ▶ ファイルをアクセスしやすい場所に保存します。次の手順でファイルをコピーする必要があります。
- ▶ ライセンス サーバーが起動時に、lsreserv ファイルを自動的に検出できるようにするには、ファイルを Windows のライセンス マネージャのインストール ディレクトリの winnt サブフォルダにコピーします。デフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。その他のオペレーティング システムの場合、ファイルをライセンス マネージャのインストール ディレクトリに直接コピーします。
- ▶ 同じ予約をすべてのリダンダント サーバーに適用する場合は、各サーバーにリザベーション ファイル (lsreserv) をコピーします。
- ▶ 終了したら、それぞれの license manager を再起動します。

license manager の開始および停止

License manager を起動する方法は、オペレーティング システムによって異なります。

Windows

Windows コンピュータの場合、ライセンス マネージャはシステム サービスです。デフォルトでは、サービスは自動的に開始されます。ただし、このサービスを手動で開始する必要がある場合は、次の手順を実行します。

- ▶ Windows のコントロール パネルで、[管理ツール] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] リストから「Sentinel RMS License Manager」を見つけます。
- ▶ そのサービスを右クリックし、[開始] または [停止] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

他のオペレーティング システムでは、ライセンス マネージャはデーモン サービスです。次の手順を完了して、サービスを手動で開始します。また、license manager が自動的に開始されるように設定することもできます（手順は次のとおり）。

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、license manager をインストールしたディレクトリを参照します。
- ▶ **起動。** コマンド プロンプトで root として「./lserv &」と入力し、Enter キーを押します。
- ▶ **停止。** コマンド プロンプトで root として「./lsrvdown <hostname>」と入力します。ここでの「<hostname>」は、License Manager が実行されているコンピュータのネットワーク名です。次に Enter キーを押します。

License manager を自動的に開始されるように設定する

Windows

- ▶ Windows のコントロール パネルで、[管理ツール] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] リストから「Sentinel RMS License Manager」を見つけます。
- ▶ そのサービスを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- ▶ スタートアップの種類を [自動] に設定します。
- ▶ [OK] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

- ▶ オペレーティング システムの起動ファイルのいずれかに「./lserv &」を追加します。

License manager のアンインストール

Windows

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
設定 > [コントロール パネル]
- ▶ [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
- ▶ [Sentinel RMS License Manager] を選択し、[削除] をクリックします。
- ▶ ライセンス マネージャを削除するかどうかを尋ねるメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、license manager をインストールしたディレクトリを参照します。
- ▶ License manager を停止するには、コマンド プロンプトで root として「./lsrvdown <hostname>」と入力します。 <hostname> は、license manager が実行されているコンピュータのネットワーク名です。次に Enter キーを押します。
- ▶ License manager がインストールされているディレクトリを削除します。

コンカレント ライセンス ツールのアンインストール

Windows

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
設定 > [コントロール パネル]
- ▶ [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
- ▶ [IBM SPSS コンカレント ライセンス ツール] を選択し、[削除] をクリックします。
- ▶ コンカレント ライセンス ツールを削除するかどうかを尋ねるメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

- ▶ コンカレント ライセンス ツールがインストールされたディレクトリを削除します。

デスクトップ コンピュータのトラブルシューティング

エンド ユーザーのデスクトップ コンピュータの license manager で問題が発生した場合は、次の手順を実行します。

- ▶ lswhere を実行して、デスクトップ コンピュータで license manager を実行しているネットワーク コンピュータを検出できることを確認します。 [詳細は、p.19 lswhere の実行 を参照してください。](#)

- ▶ license manager サービスがネットワーク コンピュータで実行されていることを確認します。
- ▶ 適切な spssprod.inf ファイルを確認します。このファイルは、デスクトップ コンピュータの製品インストール ディレクトリにあります。spssprod.inf を開き、DAEMONHOST に、license manager を実行しているコンピュータの正しい名前または IP アドレスが設定されていることを確認してください。リダンダント サーバーを使用している場合、これは空にしてください。
- ▶ 複数のリダンダント サーバーを使用している場合は、LSHOST 環境変数でそれらのすべてを定義してください。それぞれの名前はコロン (:) で区切ります。たとえば、ライセンス マネージャを実行しているコンピュータが SERVER1、SERVER2、および SERVER3 の場合、LSHOST は SERVER1:SERVER2:SERVER3 と設定します。

lswhere の実行

lswhere は、エンド ユーザーのデスクトップ コンピュータから実行でき、network license manager を実行しているコンピュータを確認できます。

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、現在のディレクトリを IBM® SPSS® Modeler Text Analytics のインストール ディレクトリに変更します。
- ▶ 「lswhere」と入力します。

エンド ユーザーのコンピュータに環境変数を定義する

エンド ユーザーのコンピュータに環境変数を定義する手順を次に示します。

Windows 2000/Windows XP/Windows 2003 で環境変数を定義するには

- ▶ Windows のコントロール パネルで、[システム] をダブルクリックします。
- ▶ [詳細設定] タブをクリックします。
- ▶ [環境変数] をクリックします。
- ▶ [システム環境変数] 領域で、[新規] をクリックします。
- ▶ [変数名] ボックスに、「LSHOST」と入力します。
- ▶ [変数値] ボックスに、network license manager を実行しているコンピュータの名前または IP アドレス（「myserver」または「204.171.64.2」など）を入力します。
- ▶ [OK] をクリックします。

サービスとサポート

IBM Corp. テクニカル サポートに連絡する場合は、<http://www.ibm.com/support> にアクセスしてケースを送信してください。IBM Corp. テクニカル サポートに登録していない場合は、登録が必要です。

IBM Corp. では、IBM Corp. 製品のトレーニング セミナーを定期的に行っています。オンサイトでのトレーニング受講も可能です。トレーニング セミナーの詳細については、<http://www.ibm.com/training/spss> にアクセスしてください。